





馬神

馬

神









國土安ん全

天泰平

海不揚波

泰風不鳴枝

御神燈



御神燈

大
春
殿

大
春
殿

御神燈



和魂神社

燈

奉





高砂神社境内マップ

高砂神社略記

祭神

素盞鳴尊
大己貴命
奇稻田姫命

尉姥祭
祇園祭
例祭

五月二十日
七月七日より十三日まで
十月十日 十一日

神功皇后征西の際、大己貴命の冥護を得て敵を平げ凱旋の途、鹿子の水門に泊られた時、此處は広く西國を見渡し、近く畿内を護るに適したよい處である。われこの地に留らん」との御託宣により、大己貴命を祀られたのが高砂神社の創始である。後に圓融天皇の天祿年間、国内疫病流行し、人民の死亡するもの算なし。神誨を得て、素盞鳴尊、奇稻田姫命を合せ祀つたところ、疫癘たちまち息み、国内大に治まった。庶民歎び報賽の典を修めた。実に天祿三年九月十一日の事である。尔来以て恒例とし、高砂牛頭天王又は祇園社とも称する様になつた。古来朝廷、国司、武將等の崇敬厚く、近世に入りても、豊臣秀吉は朝鮮出兵の際、戦勝を祈願し、姫路城主池田輝政、京都所司代板倉勝重は、杜領を寄せ、本多忠政、姫路城に臨むに及びては、崇敬殊に深く、寛永二年、本社、末社を改造し、門墻を建築し、杜領を捧げ、又三代相生松を繼植した。寛政七年には、尉姥神像を禁裡御所に勧請、御代拜あらせられ、金品を下賜せられた。明治四十二年四月、東宮殿下の行啓を仰ぎ、昭和三十年十月、秩父宮妃勢津子殿下御参拜「五代相生松」の御命名を賜はつた。上代以来和歌に謠曲に有名な相生松の枯死を惜んで、本多忠政が繼植した三代相生松は、天然記念物に指定された。天下の名木であつたが、昭和十二年に枯死し、今は秩父宮勢津子妃殿下御名命の五代相生松が、緑の色もいよいよ濃く立栄えている。松の傍に尉姥神社がある。松の水陰を清め、つわれら神靈をこの木にとどめ、永く夫婦伉儷の道を護らんと仰せられた尉姥の二神をお祀りしている。大前に願きて、和合長寿を祈り、結婚式を挙げて、偕老の契を結ぶ人々は、近年ますます多い。

妹も我もなれてよはひは高砂の

松に千歳を猶だ契らむ 宣長

一木かと思れば二木を二木かど

見れば一木を雌雄のこの松 隆正

高砂市 高砂市 高砂市 高砂市 高砂市 高砂市 高砂市 高砂市 高砂市 高砂市

神功皇后征西の際大己貴命の冥護を得て敵を平げ凱旋の途鹿子かこの水門に泊られた時「此處は広く西国を見渡し近く畿内を護るに適したよい處である、われこの地に留らん」との御託宣により大己貴命を祀られたのが高砂神社の創始である。後に圓融天皇の天祿年間国内疫病流行し人民の死亡するもの尊なし神誨を得て素盞鳴尊、奇稻田姫命を合せ祀つたところ疫癘たちまち息み国内大に治まつた庶民歎び報賽の典を修めた。実に天祿三年九月十一日の事である。尔来以て恒例とし高砂牛頭天王又は祇園社とも称する様になつた。古来朝廷、国司、武將等の崇敬厚く近世に入りても豊臣秀吉は朝鮮出兵の際戦勝を祈願し姫路城主池田輝政、京都所司代板倉勝重は杜領を寄せ本多忠政、姫路城に臨むに及びては崇敬殊に深く寛永二年本社、末社を改造し門墻を建築し杜領を捧げ又三代相生松を継植した。寛政七年には尉姥神像を禁裡御所に勧請御代拜あらせられ金品を下賜せられた。明治四十二年四月東宮殿下の行啓を仰ぎ昭和三十年十月秩父宮妃勢津子殿下御参拜「五代相生松」の御命名を賜はつた。上代以来和歌に謡曲に有名な相生松の枯死を惜んで本多忠政が継植した三代相生松は天然記念物に指定された。天下の名木であつたが昭和十二年に枯死し今は秩父宮勢津子妃殿下御名命の五代相生松が緑の色もいよいよ濃く立栄えている。松の傍に尉姥神社がある。松の木陰を清めつつわれら神靈をこの木にとどめ永く夫婦伉儷の道を護らんと仰せられた尉姥の二神をお祀りしている。大前に額きて和合長寿を祈り結婚式を挙げて偕老の契を結ぶ人々は近年ますます多い。



東宮駐駕所

謡曲「高砂」の登場人物
阿蘇の宮神主友成(うき)
が曳きしし杖より生ま流

ブ
神木
ハハハハハ

発芽せしものと伝える
植相であり枝葉は悉く
神殿に向うくいる



御神燈

榊木心三
神代古木
樹齢約2000年
樹高約30m
樹圍約1.5m

保林
環境省
自然環境センター
754968





池田輝政公高砂城跡



